

ブラジル - 政策金利を0.75%引き下げ -

<政策金利を12.25%に引き下げ>

2月22日（現地時間）、ブラジル中央銀行（以下、BCB）は金融政策委員会において、政策金利を0.75%引き下げ12.25%にすることを決定しました。利下げは4会合連続で、全会一致で決定されました。

声明文では「足元のブラジル経済は一進一退ではあるものの、短期的には経済は安定を取り戻して来ており、2017年での緩やかな経済回復の兆候が見られている」と指摘しています。

今後の金融政策については「金融緩和のペース加速の可能性は、緩和サイクルの延長が見込まれることだけでなく、経済活動の進展や他のリスク要因、インフレ予想や期待にも左右される」としています。

<ブラジルレアルの動向>

足元のブラジルレアル（以下、レアル）は、2016年11月の米大統領選後の米金利上昇やデメル大統領の口利き疑惑などからレアル安となる局面もありましたが、政治的混乱が短期間で収束したことや歳出上限法の成立などを受けて、堅調に推移しています。

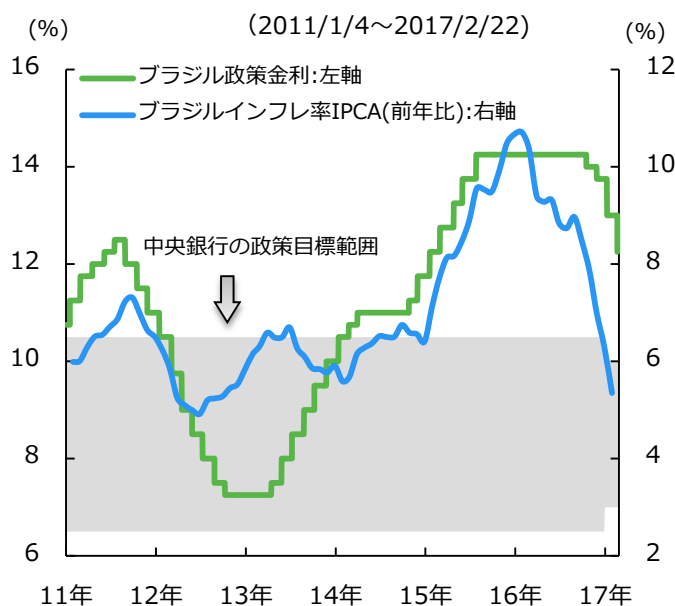
22日の外国為替市場では、2月の米FOMCの議事録で金融当局が米ドル高を懸念していることが明らかとなり、米ドルが売られたことから、新興国通貨は総じて対米ドルで上昇しました。2月22日の海外終値は1米ドル=3.065レアル、1レアル=36.97円となっています。

<今後の見通し>

ブラジル経済の低迷が続いている一方、インフレ率の低下傾向や財政再建策の進展に伴う通貨の減価圧力の後退から、BCBは景気支援のために今後も利下げを行う可能性が高いと予想されます。

利下げによる中長期的な景気回復期待や財政再建策の進展、利下げを実施してもなお相対的に高いブラジルの金利水準がレアル相場を下支えするものと見込んでいます。

<政策金利とインフレ率の推移>



※政策金利は発表日ベース

※インフレ率IPCAは2011年1月~2017年1月

<ブラジルレアルの推移>



出所：Bloomberg